

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（1294））

2. 日 時：平成30年9月27日 10時00分～10時55分

13時30分～19時10分

3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

江崎企画調査官、吉村上席安全審査官、岸野主任安全審査官、千明主任安全審査官、

植木主任安全審査官、津金主任安全審査官、日南川安全審査官、宇田川原子力規制専門職、

山浦技術参与

（技術基盤グループ 地震・津波研究部門）

山崎主任技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他12名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 設備計画グループ 担当

中部電力株式会社：原子力土建部 設計管理グループ 副長

電源開発株式会社：原子力技術部 原子力土木室 担当

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震性に関する説明書及び津波への配慮に関する説明書について説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

【屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について】

<屋外二重管>

○ 屋外二重管の地盤ひずみの評価結果において、地盤条件の代表性と妥当性についての全体の流れ及び考え方を整理して提示すること。

○ 屋外二重管の可とう管の解析用剛性値（10MPa）について、設備側の設計条件を踏まえて、設定根拠を提示すること。

○ 基礎地盤と改良地盤の識別を明確化し、「基礎地盤の健全性」と「改良地盤の安定性」との関係性を整理して提示すること。

○ 地盤改良体①の評価方法において、すべり安全率に係る記載を実際の設計に整合させること。

<緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク基礎>

○ 断面力の照査位置の設定方針について、明確となるよう整理して提示すること。

【津波への配慮に関する説明書】

<鋼製防護壁>

○ 鋼製防護壁の解析方法について、全体の流れが分かるように、整理して提示すること。

- 鋼製防護壁の地中連続壁基礎の評価について、鉄筋の配置方向及び同一部材寸法・配筋の区分に応じて応力度照査とされていることがわかるように、整理して提示すること。
- 鋼製防護壁について、アンカーボルト及びスタッドの構造寸法、配置位置、仕様、評価方法及び照査方法を整理して提示すること。
- 鋼製防護壁について、水平2方向及び鉛直方向の地震を考慮して設計していることを評価方針、評価方法及び評価結果に明記するとともに、評価結果（応力度照査結果）が妥当な安全余裕を有していることを示すこと。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

- ・ V-2-10-2-2-1 防潮堤（鋼製防護壁）の耐震性についての計算書
- ・ V-3-別添3-2-1-1 防潮堤（鋼製防護壁）の強度計算書
- ・ V-3-別添3-2-1-2-2 防潮堤（鉄筋コンクリート防潮壁（放水路エリア））の強度計算書
- ・ V-2-10-1-6-1 非常用無停電電源装置の耐震性についての計算書
- ・ V-2-10-1-5-6 緊急時対策所用発電機制御盤の耐震性についての計算書
- ・ V-3-別添3-2-1-3 防潮堤（鋼管杭鉄筋コンクリート防潮壁）の強度計算書
- ・ 工事計画に係る補足説明資料 補足-340-9【加振試験についての補足説明資料】
- ・ V-2-2-9 屋外二重管の耐震性についての計算書
- ・ V-2-2-24 可搬型設備用軽油タンク基礎の地震応答計算書
- ・ V-2-2-25 可搬型設備用軽油タンク基礎の耐震性についての計算書
- ・ V-2-2-13 緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク基礎の耐震性についての計算書
- ・ V-2-2-12 緊急時対策所用発電機燃料油貯蔵タンク基礎の地震応答計算書
- ・ 工事計画に係る補足説明資料 耐震性に関する説明書のうち 補足-340-8【屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について】  
※資料番号：補足-340-8 改48
- ・ 工事計画に係る補足説明資料 耐震性に関する説明書のうち 補足-340-8【屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について】  
※資料番号：補足-340-8 改49